

2024年5月吉日

各位

株式会社 クオントディテクト
代表取締役 西塚 哲

<連絡先>取締役事業本部長 鶴菌 伸幸
Tel 03-3242-3146

がん患者の血中腫瘍由来遺伝子変異の安定した測定を目的とした業務提携について

当社は、進行がん治療とバイオマーカーの研究を行ってきた岩手医科大学医歯薬総合研究所・医療開発研究部門で開発された特許化技術とノウハウをもとに、「研究成果の社会実装」を目標として2021年4月1日に設立されました。

この研究成果をもとに、当社は個人のがん組織等で検出される遺伝子変異を対象としたデジタルPCR (dPCR) 用プライマー・プローブ試薬 (OTS-Probes) により、がん患者の血液からがん由来の遺伝子変異 (circulating tumor DNA, ctDNA) を定期的に測定することで治療後病変を評価し、今までにないタイミングと感度でがん治療をナビゲートすることを目的とする新しい概念のゲノム検査 (OTS-Assay) を提供しています。OTSはOff-The-Shelf (すぐに使える) の略で、ユーザーが条件設定することなしに、すぐにPCRを行うことができる試薬・検査でありたいという願いが込められています。

この度、株式会社日本遺伝子研究所が持つHypercool Primer & Probe™技術をベースとしたOTS-Probesライブラリー (プライマー・プローブの集合体) を構築することを目的に、業務提携をすることになりましたのでお知らせいたします (Hypercool Primer & Probe™とは70bp近傍の短鎖ターゲットのデジタルPCRを可能とする技術です)。

これまでもctDNAを検出する研究は数多く行われてきましたが、その血中濃度の低さからdPCRの利用は必須でした。しかしながら、市販のdPCR用プライマー・プローブ試薬は、がんで見つかる変異数に対して圧倒的に種類が少ない上、動作確認されずに販売されることが多いため、購入しても速やかに測定できないことが課題でした。OTS-Probesは、統計的にヒトがんで高頻度に検出が予想される1,000種類以上の遺伝子変異が選定されているため、選定・設計・合成にかかる時間を大幅に短縮できます。また、新たな変異に対するプライマー・プローブであっても製品化前にdPCRでの動作確認を行うことで速やかな測定につなげます。

弊社の技術・ノウハウと、株式会社日本遺伝子研究所が持つプライマー・プローブ特殊合成技術により、がん治療における有用な情報提供していく所存です。

以上